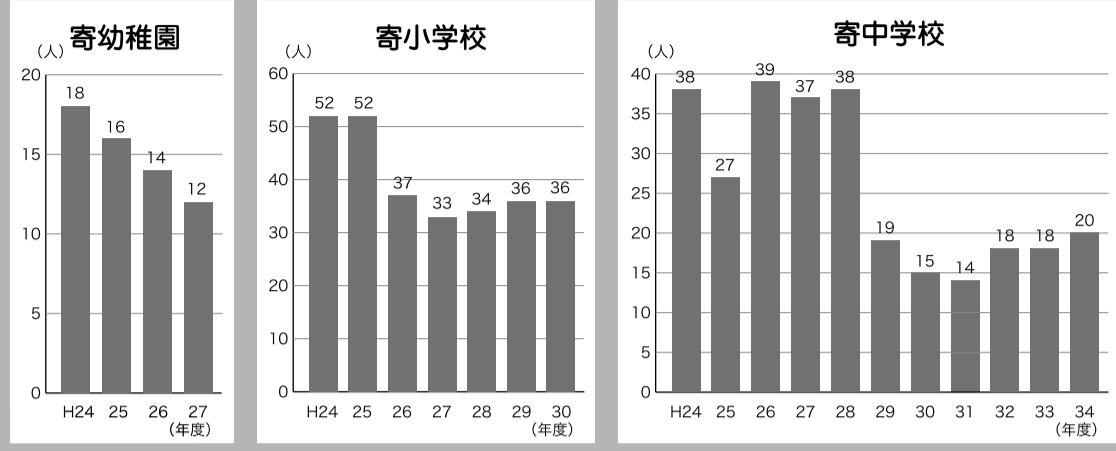


### 寄地区の子どもの人数は(推計)



### 寄地区学校あり方の提言書を町に提出

寄地区の将来的な学校のあり方について総合的に検討するため、平成23年6月に「寄地区学校あり方検討委員会」が設置され、以来15回にわたり委員会を開催し協議を続けてきました。このたび、平成25年3月4日に提言書が取りまとめられ、町に提出されました(以下、提言書の概要)。

この提言書では、児童・生徒数が今後も減少していく傾向を捉えたうえで、「幼稚園、小・中学校を存続させることが望ましい」との結論に至っています。

# 検討委員会「存続が望ましい」



寄・松田小の交流＝平成23年11月

**2 懇談会とアンケートの実施**  
懇談会は、平成24年7月3日から5日まで寄地区住民を対象として

実施しました。その結果、「統合」を望む意見が「存続」を上回りました

各年の人数は、平成25年1月1日現在の寄幼稚園児・寄小学校児童・寄中学校生徒の在籍数と、未就園児1歳から3歳児(18人)がそのまま入園、進級、進学すると仮定した場合で推計されました。この時点で寄小学校全児童52人が在籍しており、うち現在の6年生21人が小・中学校を卒業する翌年度(\*)からそれぞれ在籍数が大幅に減少する傾向となっています。(\*)上のグラフで平成26年度の寄小学校児童数、29年度の寄中学校生徒数を指します。

「保護者」として中学生以下の子どもを持つ保護者92人に、「抽出者」として保護者を除く20歳から79歳までの寄地区の住民から抽出した200人の計292人にアンケート用紙を発送しました。

子どもの数が減少している中、今後、寄地区の学校をどのようにすべきとお考えですか。  
**あてはまるものに1つだけ○をつけてください。**

① 寄幼稚園、寄小・中学校とも存続すべきである。  
② 寄幼稚園、寄小、寄中のすべてを松田地区の幼稚園・小・中学校に統合する。  
③ 寄小を松田小に、寄中を松田中に統合する(寄幼稚園は存続)。  
④ 寄中を松田中に統合する(寄幼稚園、寄小は存続)。  
⑤ 寄小を松田小の分校にして、寄中は松田中と統合する(寄幼稚園は存続)。

**1 寄地区の学校をとり巻く状況**  
(平成25年1月1日現在)  
園児・児童・生徒数の推計について(上のグラフ参照)

た「学校のあり方に関する懇談会」として開催されました。この懇談会では、少人数のグループでの意見交換を行い、参加者一人ひとりから考えを聞きました。小規模校のメリット、デメリットをはじめ、存続・統合に関して率直なご意見や熱い思いを聞くことができました。が、学校の存続・統合に関しての意向については、大きな差は見られませんでした。

■保護者

①すべて存続	20人	36.4%
統合	31人	56.4%
②すべて統合	(5)	(16.1%)
③小、中学校統合	(3)	(9.7%)
④中学校統合	(19)	(61.3%)
⑤小学校を分校、中学校を統合	(4)	(12.9%)
未回答・その他	4人	7.2%
合計	55人	100%

■抽出者

①すべて存続	25人	46.3%
統合	26人	48.1%
②すべて統合	(5)	(19.2%)
③小、中学校統合	(3)	(11.5%)
④中学校統合	(14)	(53.9%)
⑤小学校を分校、中学校を統合	(4)	(15.4%)
未回答・その他	3人	5.6%
合計	54人	100%

※回答の( )は内数

回答結果

区分	対象	回答	回答率
保護者	92人	55人	59.7%
抽出者	200人	54人	27.0%



少人数を生かしたきめ細かな教育を目指す提言は寄幼稚園も同様

(上の表「回答結果」のとおり)。しかし、学校に対する思い、考えを自由に記述する欄で「統合」と答えた方で「存続を望む」と記入する方も複数見られ、判断に迷っている様子が伺われました。

このことは、回答率(回収率)が低いことにも問題がありました(上の表)。

**6 検討委員会から町への要望**  
これまでの少人数による教育実践をより一層進展させるとともに、小規模校で学ぶことの良さをより多くの方に理解してもらうため、教育内容や実績を幅広く周知していく必要があります。

さらに、定住促進や小規模特認校制度(\*)の導入など、より多くの子どもが寄地区の学校で学ぶことができるような方策の検討が今後、必要になると考えます。

**3 提言作成に向けて**  
懇談会やアンケートの回答をもとに、委員会で協議を重ねました。その結果、寄幼稚園、寄小学校は「存続が望ましい」という共通理解を図ることができましたが、寄中学校については「統合」を望む意見もあり、さらなる検討を要しました。その結果、以下のような提言がまとめられました。

※小規模特認校 小規模の特性を生かした学校で、町内の全域から通学できる制度。近隣では、小田原市立片浦小学校が昨年度から制度を導入しています。

**4 提言**  
寄地区の幼稚園、小学校、中学校を存続させることが望ましい。

**5 提言の基本的な考え方**  
現在、寄地区の学校では、少人数を生かしたきめ細かな教育が実践され、着実に成果を上げています。子どもの幸せを第一に考え、今後も地域との連携を図り、少人数でのメリットを最大限に生かした教育を実践し、一人ひとりに

**7 町教育委員会の考え方**  
町教育委員会では、この提言書を受けて、子どもたちの豊かな学びとその成長が保障される方向となるよう配慮し、今後も継続して慎重に審議、協議を行い、2～3年後にもう一度見直しをして、ふさわしい結論が形成できるようにしていきたいと考えています。

豊かな心・すこやかな体を育てていくことが大事であると判断するに至りました。

寄中学校に関しては、「多様な個性や能力、あるいは価値観をもつ仲間と触れ合える学校規模が望ましい」との意見も寄せられましたが、少人数を生かした特色ある学校づくりを進めることにより、これを克服することができると考えました。